

新緑から初夏の頃となり、日差しの厳しさが増していくのを感じつつも、まだ日陰に入るとさわやかな風に気持ちがあほころぶ季節となりました。

明石小校区ではあまり見られませんが、田植えの真っ盛りとなっています。私も今週末には、田舎で田植えの手伝いを予定しております。八十八の手間がかかると言われる米作りは、2月頃に始まる田起こしから苗床作り等々を経て収穫、田じまいと大変多くの手間と時間をかけて、大地の恵み(栄養)をお米という形でいただくものです。ちなみに、一粒の種もみからどの位の米粒がとれるのでしょうか。条件によって異なりますが、日本の技術が進んで300~500粒ぐらい(品種により1000粒とも)とれると言われていています。お茶碗一杯がおよそ3000粒とすると、およそ8粒の種もみがお茶碗一杯分のご飯になるのです。一粒の種もみの力と大地の大きな恵み(栄養)を実感させられる米作りです。

手間という意味では、子どもの教育も同じように大変手間のかかるものです。ただ、米作りと大きく違って、子どもは一人ひとり、全く違う手間のかけ方が必要です。育てる手間として与える栄養も食べ物だけではだめで、やってみせる栄養、やらせてみる栄養、叱咤激励や温かい言葉、導く言葉、後で効いてくる言葉等の栄養、新しい知識や新しい技術、新しい感じ方の栄養、笑顔で迎えるや頷く、共感する等の愛情という栄養というように、多種多様な栄養を、その子にあったときに、その子にあった与え方が必要になります。その多くの部分は、ご家庭と学校が担っております。学校では、どうしても学級単位の中での一斉授業や指導となりますので、教師は個に目を向けることを意識して、できるだけその子にあった栄養を与えていけるように授業改善に取り組んでいます。一時間一時間一人ひとりの子に「めあて」に対するそれぞれの「振り返り」を行わせることで、自分の得た栄養を確認するような授業構成を考えています。「あ、今、この栄養が必要だな」「うまく受け取ってくれたな」等と、日々子どもとのやりとりを実感しながら、米粒に習って小さかった子ども一人ひとりが500倍もの実を实らせられるように、ご家庭と協力して、温かい500以上の手間をかけていきたいと考えております。お茶碗にあふれるような子どもの育ちを期待して。そこで、梅雨を迎える今年も、その栄養の一貫として、「雨の日読書」を推進し、図書室だけでなくあかし市民図書館などもどんどん活用するような子どもを育み、子どもの語彙力・読書力の向上を図っていきたく思います。

さて、本校では、7月より夏休みを中心にエアコン設置工事が行われます。学校の利用に際してご不便をおかけすることはありますが、明石市の施策のおかげで、通常学級全てにエアコンが設置され、この冬の暖房から利用が可能となります。

また、最近様々な職種や方面から働き方改革が叫ばれております。学校も働き方改革を推進するように指導を受けており、第一歩として本校では、毎週火曜日を定時退勤日と設定して取り組んでおります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 玉田 絹夫

◇◇◇◇校内の掲示板◇◇◇◇

明石小学校には、階段踊り場や廊下に合わせて11カ所の掲示板があります。職員室前には、イベントや行政機関からの啓発ポスターを掲示しています。踊り場の子ども達の作品は、掲示委員会の子ども



たちの作品は、掲示委員会の子どもたちが、各学級の作品を預かって1ヶ月ごとに順番に作品を掲示しています。図工の作品や生活科、総合的な学習の時間の作品など、そのジャンルは、多岐にわたり絵画や習字、詩、感想文等いろいろな子どもたちの精一杯取り組んだ作品を見ることができます。